［資料紹介］

N.V.シャイドゥロワ著「伝統的はぎれ人形」について
Н.В.Шайдурова *Традиционная тряпичная кукла*

岩本眞樹

1．はじめに

世界中のどの国のものであっても、民衆の手仕事というものは、歴史や風土に育まれ、また生活様式とも深く関わりながら継承され、そこには固有の知恵や工夫、価値感、そして美しさなど、民族の特質が反映されているものである。

現在ロシアでは、そんな手仕事のひとつである小さな布の人形が大きな関心を呼んでいる。本稿ではこの人形について記した本「伝統的はぎれ人形」（Шайдурова［2012］）を紹介する。

はぎれ、つまり小さな布を重ねあわせ、はさみも針も使わずに、糸でしばって作る小さな人形は、一見したところ単純で簡素なものに見える。しかしこの人形には、作る目的ごとにたくさんの異なる種類があり、その数は数十種類にも及ぶ。この素朴な人形は、遠い昔から[1]人々に寄り添い、その暮らしと深く結びつき、一部となってきた。様々な願いや祈りを込めて作られ、実際に不思議な力を持つとされた。出生、結婚、死など人生の節目の儀礼で特別な役割を持ち、季節ごとの行事や記念日の祝いに付き添った。そればかりでなく、普段の生活の中で家や家族を厄災から守り、健康と幸せをもたらすものとして大切にされ、敬われてきたのである。例えば、赤ん坊の誕生を待つ母親は、人形を作り、準備したゆりかごの中に置き布団を温めてもらった。生まれた後も人形は赤ん坊の隣にいて危険や災いから守った。百姓小屋のペチカの上には人形が下げられ、外から入ってくる病の元を代わりに受けとめてくれた。家族が皆お腹いっぱいでいら

れますようにと豊かな収穫を願い、穀物の実を詰めた人形が作られた。遠くへ旅立つ夫や息子へは、お守りとして手渡された。こうした伝統的な民族の人形において目を引く特徴を挙げると、「顔が描かれない」ということだ。邪悪な闇の力は目、鼻、口、耳を通って入り込むと信じられていたためで、それを避けるために描かれないのである。ほぼ全ての女の子は４、５歳から自分の手で人形を作り始め、人形とともに成長していった。そして祖母から娘へ、娘から孫へと受け継がれていった。

長く伝えられてきたこの人形は、時代の変化、生活の変化の中でいつしかロシアの人々の生活から姿を消していった。しかし、再びこうした人形が少しずつ見直されるようになり、最近では人気となって、各地でワークショップが開催され、教育の現場でも注目されている。筆者も一昨年、サハリンから招いた人形作家によるワークショップの手伝いをしたことがある。参加者は小さな子供と母親たちであったが、色とりどりのはぎれを重ねたり巻いたりしながら、愛らしい自分だけの人形を作ることを楽しんでいた。また邪気を払い幸せを呼ぶ「お守り」という概念は日本人にも受け入れやすく共感を呼ぶもので、ロシアという国をより身近に感じてくれるきっかけともなったようだった。

本書はシャイドゥロワが教育者としての立場よりこのはぎれ人形に注目し、子どもの教育に取り入れるためのメソッドを示しており興味深い。実際の作り方も図解と共に紹介している。伝統的手仕事の一つであるロシアの「はぎれ人形」を通じてロシア古来の世界観や祈りに思いを馳せ、またこの人形作りの魅力をぜひ日本の多くの人に知ってもらいたい。

（1）著者の紹介

この本の著者、シャイドゥロワ・ネリー・ヴラジミロヴナ（Шайдурова Нелли Владимировна）は現在、アルタイ国立大学の準教授を務めており、この大学のホームページでは著者について次のように紹介されている[2]。

シャイドゥロワは、イルクーツク国立教育大学で「教育学・心理学（就学前児童）」を専攻し、卒業後はアルタイ国立教育大学の大学院で学んだ。

現在はアルタイ国立教育大学で心理学・教育学部に所属し、一貫して就学前児童への造形教育、またそれを通した情操教育を専門に行っている。造形・描画活動や装飾・美術工芸作品を用いて行う就学前児童への情操教育についての著書を多数出版している。本書では伝統的な工芸品として「はぎれ人形」を取り上げているが、他にマトリョーシカ人形（Шайдурова, Черемисина［2010］）、パスハの卵（Шайдурова,Онорина［2010］）、曼荼羅なども取り上げている。また就学前児童向けに、人や動物、鳥、建物の絵の描き方、また絵葉書の作り方などの冊子も多く出版している。幼稚園等の機関で大学生による実践的授業や研究授業を行い、さらに母親向けのワークショップやセミナーも開催している。

（2）本の体裁

本のサイズは21cm × 14.5cm と一般的な大きさのハードカバーの本である。**図1**のように、表紙は青灰色の地色に色鮮やかな端切れを使った人形が３種類掲載されている。

出版社は「ジェーツトヴォ・プレス（子供時代出版）」（ДЕТСТВО-ПРЕСС）で、サンクトペテルブルクを本拠地とし、就学前の子供向けの文学作品や視覚的教材を出版している。



図1　本の表紙

（3）本書の要点について

時代の移り変わりと共に、教育の現場でも新しいニーズが生じ、伝統文化の教育が次第に顧みられなくなってきた。しかし、シャイドゥロワは祖先の生活習慣や歴史、世界観が豊かに反映された民族芸術について、子どもの教育にとって重要な素材であると考えている。特に伝統的はぎれ人形は、民衆の暦・季節に特有の祭日や催しとそこに伴われる祈りや願い、ま

た一生の中に訪れる喜びや悲しみを象徴し、その呪術的力は敬われ、頼みとされて、人々の心と深く結びついた生活に欠かせない存在であった。人形を伝えることは民族の知恵や伝統を伝えることでもあった。そのため、これを学ぶことはロシアの民族文化を学ぶための素晴らしい方法であると考える。同時に人形作りの授業を通じては、次のような教育効果・子供の発達が期待できるとしている。「先祖に大切にされてきた価値や伝統を知り、愛する気持ちを育てる」、「自分の手で作る喜びを味わい、創作への意欲を生み出す」、「色の系列を学び色彩感覚を育てる」、「美的感覚を育て、芸術に際する感情的反応を高める」「想像力を高める」などである。本書は、こうした素晴らしい特質を持ったはぎれ人形の魔法の世界を解説しつつ、教育の現場で応用できるような実際的な方法論も示す参考書ともなっている。

（4）本書の構成について

構成は、大きく分けて三つに分けられる。

1　伝統的はぎれ人形の特徴について。
　文化史的な意義と教育的特質について。
　その種類と分類、作成の特徴。
2　はぎれ人形を子どもに教える授業について。
　授業導入時の工夫、授業実践の原則、教授法、教育用具。
3　はぎれ人形の作り方（29 種類）。
　各種の人形のそれぞれの特徴と作り方。一部図解･写真付きで説明。

最後に参考資料として

（1）学部生のための教授法の資料
（2）授業用の資料（授業例も紹介）
（3）ロシアの民族衣装の資料
（4）民族的人形が登場するロシアの昔話三篇

が収められている。

本稿では、人形そのものに焦点を当て、「はぎれ人形の特徴」と、「はぎれ人形の作り方」についてその一部を例に取り、紹介しよう。

２．伝統的はぎれ人形の特徴について

（1）種類

伝統的はぎれ人形は用途ごとに次の３つ、儀礼用、魔除け用、遊具用に分類される。

ではまず、儀礼用人形からみていこう。

■用途１　儀礼用人形[3]

儀礼用人形は、人が生まれて死ぬまでの間に行われる家族的な節目を祝う行事や、季節ごとの祭事に伴った。

10 世紀にキリスト教の教えがもたらされて以降も、異教時代の儀礼の名残は、キリスト教の儀式とからみあいながら存在し続けた。ロシアの暦において中心となるのはキリスト教の一連の祭日であるが、人々が日々行う行事は、古くから従事してきた農事と密接にかかわるものであった。

家族的な行事にまつわる人形の種類は次の**表1**のように整理されている。

表１．家庭儀礼での人形

（日本語訳は筆者による。以下、特に断りのない限りロシア語の訳は筆者による）

儀礼	人形
出産	おくるみ（おむつ）人形　（Пеленашка） クヴァトカ（Куватка）（擬娩(кувада)という夫も出産の苦しみを摸する風習より。 巻き人形（Закрутки）
結婚	結婚式のパンに乗せる人形(Свадебная на каравай) 別れない二人（Неразлучники） 灰人形（Зольная） 巻き人形　（Закрутка） 慰め人形（Утешительница） 結婚の人形（Свадебная） おくるみ（おむつ）人形　（Пеленашка）
葬式	巻き人形 その他（Закрутки и др.）

Шайдурова[2012]: 17の表を参考に作成

次に、魔除け（お守り）人形についてみてみよう。

■用途２　魔除け（お守り）人形

魔除け（お守り）人形は、自分や家族、そして家をあらゆる不運や禍から守るために作られた。ロシアでは昔から「邪視」（その視線を注がれることにより人や物に厄災が生じるとされる信仰）が広く信じられており、これから守るためにも人形は作られた。**表２**は魔除け人形の種類である。

表２．機能別魔除け（お守り）人形の種類

生産	守護	浄化	代理
富 (Богатство)	クヴァトカ (Куватка)	カッコウ (Кукушка)	おくるみ（おむつ）人形 (Пеленашка)
灰人形 (Зольная)	熱病人形 (Трясовицы)	十字架人形 (Крестец)	
子どもを連れた小さい柱型人形 (Столбушка с детками)	慰め人形 (Утешительница)	浄め人形 (Очистительная)	
穀果人形 (Зерновушка)	クジマとデミヤン (Кузьма и Демьян)	イワン・クパーラ人形 (Купавка)	
昼と夜 (День и Ночь)	小さい柱型人形 (Столбушка)	3月人形 (Мартинички)	
結婚人形 (Свадебная)	ヴェプス民族の人形 (Вепсская)	マースレニッツァ人形 (Масленица)	
10本の手人形 (Десятиручка)	ベレギーニャ女神 (Берегиня)	ルサルカ(水の精) (Русалка)	
キャベツ人形 (Капустка)	眠れない子人形 (Бессонница)	薬草女人形 (Кубышка)	

Шайдурова[2012]: 18の表を参考に作成

魔除け（お守り）人形の４つ機能の内、「代理」は具体的な誰かの代わりをつとめるものだが、その例として、広く知られたロシアのおとぎ話「麗しのワシリーサ」がある。人形が亡くなったお母さんの化身となり、いつも娘のそばにいて助言を与え、困難な課題を解決してくれ、最後にワシリーサは幸せを得るお話だ。参考資料に全文が収められている。

（Шайдурова［2012］：155-163）

お話の中には次のような台詞がある。

「おきき、ワシリーサよ。私の最期のことばをよく覚えていてその

通りにしておくれ。私はもう死んでいくけれど、親の祝福と共に形見としてこの人形をお前に残していきます。大切にして、いつも肌身離さず、誰にも見せてはいけません。もしお前に何か困ったことが起こったら、人形に食べ物をあげて相談してごらんなさい。人形は食べ、その苦境から救い出す方法を教えてくれるでしょう。」　（Шайдурова［2012］：155）

最後に遊具用の人形を見てみよう。

■用途３　遊具用人形

人形はもちろん、ロシアでも最も古い遊び道具のひとつであり、村の生活でも馴染みのものであった。シャイドゥロワは「どんな貧しい農家にも必ずはぎれ人形はあった。」（Шайдурова［2012］：19）という[4]。

人形遊びを通じて子供たちは周囲の生活や大人の役割を再現し、農民の生活習慣をなぞった。経験したこと、学習したことを反復して社会性が身につけられていった。こうした人形遊びの役割は現代も変わらないものがあるだろう。

人形は小さい女の子のものだけではなく、年頃の娘になっても大切にされた。娘たちは人形を持ち寄って「手仕事の集い」（посиделки）[5]に参加したり、お客に行ったりした。「人形の美しさ、出来栄えは、持ち主の趣味や能力が判断される基準ともなっていた」

（Шайдурова［2012］：19-20）。

次にシャイドロワによるはぎれ人形の作成方法における特徴をまとめてみた。

（２）作成の特徴

◎人形は基本的に女性の姿をしている。

　これは太古の時代の地母神信仰とも結びついている。

◎使用する布は、家で既に使用された古い物を使う。

「家で幸せな時間を過ごした」布を使って作られた人形は、家族のために特別な力を発揮することができると考えられた。

◎人形を作る際には、はさみも針も使われなかった。
自分を守ってくれる人形を「切ったり」「刺したり」はできない、ということから布を巻き付けたり結んだりして作成した。

◎ほとんどの場合、顔は描かれなかった。口や鼻、眼や耳を通して魂はその姿の中に入り込む。そのため悪霊や邪悪な魂が入り込む入り口がないように顔は描かれなかった。（その後、この本来の意味は失われ単なる人形の美しさの特徴となった。さらに後には都会の人形の影響を受け顔が描かれるようになった。）[6]

◎人形を作る時期。すべての手仕事にとって「悪い時期」とされる祝祭日、夜中、水曜日と金曜日には作ってはいけなかった。この時期には繊維の材料に悪魔や妖怪が悪さをしているからだ。

◎お守り用の人形は一気に作られた。
一度始めたら作り上げてしまわなければならず、延期することはなかった。これは二度目に行われたことは一度目に行われたことを抹消してしまうという民間信仰による。　（Шайдурова［2012］：21-30）

次に実際の人形の作り方を紹介しよう。

3．儀礼用人形の解説と作り方

（1）《結婚儀礼の人形（Обрядовая свадебная кукла）》（《離れない二人（Неразлучники）》）

このペアの人形は一本の腕でつながれていることが大きな特徴であるが「これは夫婦が嬉しいときも悲しいときも、手を携えて人生を歩む覚悟の象徴である。」（Шайдурова［2012］：45）古くは婚礼行列のときに邪視から守るために馬（又はそり）に下げられた。現在は結婚の際の贈り物である。

【作り方】（図２の作り方の絵と、図３の作成例を参照）

・長方形の布（7cm×20cm）を両端から折って人形の胴体を二つ作る①
・縦に二つに折り、輪になった方を糸でぐるぐる巻いて頭を作る。
　花婿の方は別れた二つの布の先を糸で縛って足を作る。
　花嫁の方はスカートの形になるように広げて伸ばす。②
・箸か木片に布を巻きつけて腕を作り両端から１cmのところを縛る。③
・腕を二人の頭の下の布に挟み込む。胸を糸で十字に縛りとめつける。
　腕の中心に細い帯を結ぶ。二人の人形の腕の先を糸か帯でつなぐ。④

（Шайдурова [2012]：44-45.）

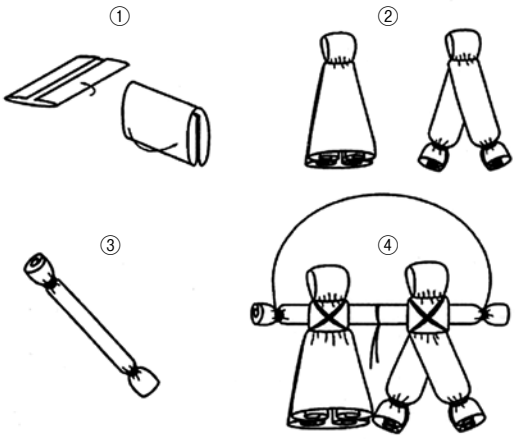


図２　離れない二人（Неразлучники）の作り方
（Шайдурова [2012]：44）

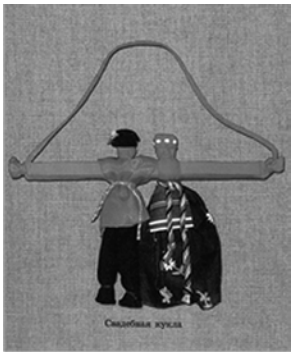


図３　離れない二人
（Неразлучники）
（Котова И.Н., Котова А.С. [2005]）

（2）《おくるみ（おむつ）人形（Пеленашка）》

《おくるみ（おむつ）人形（Пеленашка）》は最も簡単な作り方の人形である。布に幾重にもくるまれた赤ん坊である。

古代のロシアの村の人々にとって、出産は母子にとって命の危険を伴うものであった。これは悪しき力や呪いが働くためだとされ、出産時の母子

を守るために様々な出産儀礼が行われたという。

この《おくるみ（おむつ）人形（Пеленашка）》が登場するのは結婚のときからである。花婿の家に着いた新婦の膝の上には小さな赤ちゃんか、またはおくるみ人形が置かれた。これにより新婦に母性の力が宿るとされた。出産後もおくるみ人形はゆりかごの中で赤ん坊に添い寝し、あらゆる災難を代わりに引き受けた。　（Шайдурова［2012］：54）

【作り方】（図４の作り方の絵と、図５の作成例を参照）

・二枚の正方形の布と一枚の細長い長方形の布、糸を用意する。
・細長い布をきつく巻いて筒状にする。真ん中を編み紐でしばる。①
・頭を形づくるため一方の端から1/3のところを糸で縛る。②
・三つのステップで人形を包む。最初に頭をスカーフで巻く。スカーフは正方形の布を対角線で折る。スカーフは前で十字に交差させ結ばないで端を後ろに回す。③
・次に布でくるんでいく。正方形の布の上に頭が出るように置く。上部の角の一つを斜めにもっていく。④
・もう一方の角も斜めにもっていき最初のものと交差させる。開いている下の部分の布は上に折り曲げぴったりくるむ。⑤
・次に紐で固定する。背中側から交差させ人形の上部と下部をしっかりと巻き付ける。残った紐の端っこは紐の下に入れて結び目は作らない。⑥

（Шайдурова［2012］：56）

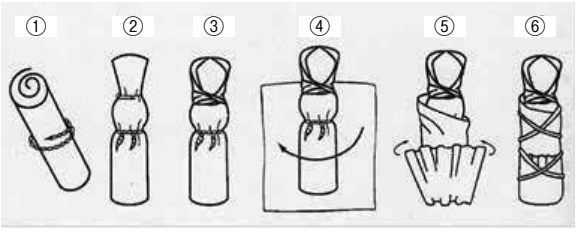


図４　おくるみ人形（Пеленашка）の作り方
（Шайдурова［2012］：56）

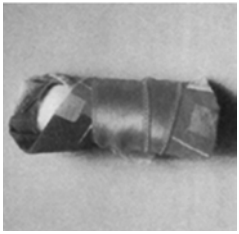


図５　おくるみ人形
（Пеленашка）
（Шайдурова［2012］）

（3）《パスハの小鳩（Пасхальная голубка）》

《パスハの小鳩（Пасхальная голубка）》はその名のとおりパスハ（復活大祭）のときに作られる人形である。存在する全てのものへの無条件の愛のシンボルとして贈りあった。



図7　パスハの小鳩（Пасхальная голубка）（Шайдурова［2012］:57）

【作り方】（図6の作り方、図7の作成例を参照）

・20×20cmの正方形の布の真ん中に綿のかたまりを入れる。①
・頭の形を作り、首の部分で糸を巻き付ける。②
・手を作る：頭から斜めの線にそって布をぴんと伸ばし、角を端から1～1.5cm内側に折る。両側の角を紙飛行機のように折り曲げる。出来た角を真ん中から半分に折り、縦の真ん中の折り目に向かって内側に折る。角から1～1.5cmのところを糸で縛る。これが手のひらになる。③
・もう一方の手も同様にする。④
・今作った胴体の中に綿のかたまりを入れ胸を形作る。腰の部分を赤い糸で縛る。⑤
・円形の布を4回折って中心の角を切り取る。⑥
・できた穴に胴体を足から腰まで差し込む。スカートを糸で縛る。⑦
・人形をひっくり返してスカートを整える。⑧
・額に飾り布（細長い布）を巻く⑨
・飾り布の上にスカーフを巻く。⑩

（Шайдурова［2012］: 56-57）

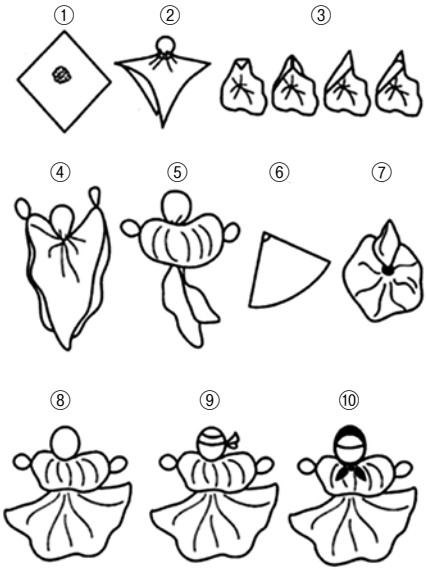


図6　パスハの小鳩（Пасхальная голубка）の作り方
（Шайдурова［2012］:57）

４．魔除け（お守り）人形の解説と作り方

（１）《10 本の手人形（Десятиручка）》

名前のとおり10本の手を持つ人形。この人形のそれぞれの手は娘や女性の様々な仕事を手伝うためのもので、いつも家は片付き、仕事はうまくいき、何事も遅れずに、裕福でありますようにとの願いをこめて結婚式のときに贈られたという。　（Шайдурова［2012］: 79）

【作り方】（図８の作り方を参照）

・胴体用に細長い布を長い辺の両端から巻いて、真ん中から折り曲げる。頭の部分を糸で巻いて作る。①
・細くて短い布を巻いて腕を作る。端から１cmのところを糸で巻き結び目を作る。②
・５本の両腕を作り、扇のように広げる。③
・胴体の間の頭の下の部分にその腕のセットを挟み込む。④
・胴体と手を十字に糸を巻き付けてとめつける。⑤

（Шайдурова［2012］: 79）

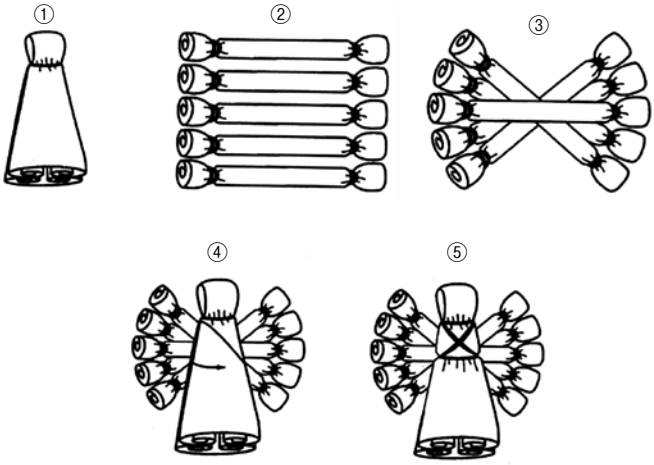


図８　10本の手人形（Десятиручка）の作り方
（Шайдурова［2012］: 80）

（2）《鈴人形（Колокольчик）》
（《踊る人形（Танцующая кукла）》）

この人形は、良い知らせをもたらす人形だ。鈴の音はペストその他の恐ろしい疫病から人を護る。お祭りの日には三頭立ての馬車に吊るされ鈴の音を響かせた。鈴人形は明るく元気で、家に嬉しさと楽しさをもたらす。機嫌の良さのお守りだ。鈴人形を贈るとき、その人に良い知らせだけがもたらせるよう、楽しく嬉しい気持ちが続くようにと願う。

（Шайдурова［2012］：78-79）

【作り方】（図９の作り方を参照）

・カラフルな布で、直径の異なる円形を三枚用意する。①
・一番大きい円の中心に綿を置き、糸できつく巻く。②
・②の上に二番目に大きい円形の布をかぶせ、これも糸で巻き付ける。同様に一番小さい布を上にかぶせ、糸で巻く。③

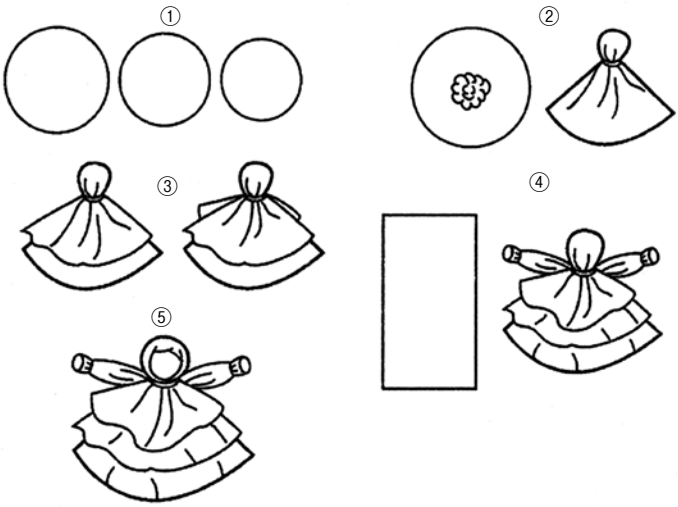


図９　鈴人形（Колокольчик）の作り方
（Шайдурова［2012］：78）

・顔と手用に白い小さい長方形の布を用意する。頭にかぶせて首の部分をきつく糸で巻いて固定する。腕の両端から１cmのところを内側に折り、次に左右から真ん中の線まで内側に折り、最後に真ん中の線で二つに折る。先を糸で巻く。④
・スカーフを頭に巻く。端は手の下を後ろに回し結ぶ。⑤

（Шайдурова［2012］：78-79）

５　終わりに

はぎれ人形はどれを取り上げても、その後ろにロシアの大地や太陽、豊かな森や畑、百姓小屋など、農民の生活が感じられ、手仕事に励む農村の娘たちの姿が生き生きとよみがえってくるようだ。作り方の基本があるため同じ名前の人形はどれも似てはいるが、布の選び方、色の合わせ方などで全く違ってくる。そこのアレンジが一番難しいところであり、作り手の想像力が試される楽しいところでもあろう。はぎれ人形は知れば知るほど奥が深く興味深い。改めて我が国のことを振り返って考えると、形こそ違っても、お互いに共通するものが浮かんでくる。例えばお守りや魔除けは私たちにとって身近なものであり、赤ん坊の産着の麻の葉模様は災いを防ぐお守りであり、昔は母親が一針一針刺繍を入れたものであったという。また、破魔弓は悪しきものから男児を守るものであった。子供の幸せを願う親の気持ちは国が違っても同じであろう。その国、その民族に固有のものを見つめ、学ぶことにより、むしろそこに自分たちと共通の、響きあうものがあることにも思いが至る。そうした発見と諒解の心持ちの積み重ねがお互いの国を尊び、わかりあうことにもつながっていくはずである。

（注）

1. ロシアの村々ではぎれ人形が最も広く流布したのは1900-1910年頃である。（Дайн［1981］：25）
2. アルタイ国立教育大学（Алтайский государственный педагогический университет）
   https://www.altspu.ru/ped-pshyhol/inst_kaf1/25409-shaydurova-nelli-vladimirovna.html （参照日：2018年8月25日）
3. スラブの人形のはじまり、つまり最も古い人形は、神に捧げるいけにえの儀式で人間の代わりを務めたものだという。遠い先祖の時代、人々は豊かな収穫を祈り神に様々な贈り物を捧げていたが、人間の女性がいけにえとされる習慣があった。あるとき女性の代わりに人形に女性の服を着せ、神に捧げた（кукла-полено）。これを神が受入れ、人形には名前が付けられた（Коллодия）。これが最初の人形である。（Шайдурова［2012］：16）
4. Дайн［1981］：25にも同じ表現がある。
5. 「手仕事の集い（посиделки）」とは農閑期の秋・冬の夜に行われる若者たちの集いのひとつ。娘らは紡ぎ仕事や編み物、縫い物を持って集まった。こうした手仕事の上手さは良い嫁としての条件にもなっていた。これについては、伊賀上菜穂［2018］: 197-202 に詳しい説明があり参照のこと。また、Дайн［1981］：30 にもこれについての記述がある。「人形は手仕事の基準として見られていた。そのため『手仕事の集い』に未成年の娘たちは紡ぎ車と人形を車に乗せて持って行ったものである。」
6. この顔についてのШайдурова［2012］：24の記述はДайн［1981］：40の記述と重複している部分がある。

（参考文献）

Шайдурова Нелли Владимировна［2012］*Традиционная тряпичная кукла : Учебно-методическое пособие,* СПб., ДЕТСТВО-ПРЕСС

Шайдурова Н.В., Черемисина Т.［2010］“Приобщение детей дошкольного возраста к национальной культуре в процессе ознакомления с русской матрешкой”, *Актуальные вопросы психологии и педагогики образования:матер.всероссийск.науч. - практ. конф. Молодых ученых с международным участием*〔Электронный ресурс〕, Барнаул : АлтГПА, отв.сост.О.А.Брылева,О.Г.Хмелева, URL : https://www.altspu.ru/ped-pshyhol/ipp-science/（Дата обращения : 09.01.2018）

Шайдурова Н.В., Онорина А. [2010] “Нравственно-эстетитеское воспитание детей старшего дошкольного возраста в процессе ознакомления с пасхальным и яйцами”, *Актуальные вопросы психологии и педагогики образования : матер. всероссийск. науч. -практ. конф. Молодых ученых с международным участием* 〔Электронный ресурс〕, Барнаул:АлтГПА, отв. сост.О. А. Брылева, О. Г. Хмелева, URL: https://www.altspu.ru/ped-pshyhol/ipp-science/（Дата обращения : 09.01.2018）

Дайн Г.Л. [1981] *Русская народная игрушка,* М., Легкая и пищевая промышленность.

Дайн Г.Л. [1987] *Русская игрушка,* М., Советская Россия.

Котова И.Н., Котова А.С. [2005] *Русские обряды и традиции. Народная кукла.,* СПб., Паритет.

伊賀上菜穂 [2018]「手仕事と遊びの集い」『ロシアの歳時記』ロシア・フォークロアの会なろうど編著　東洋書店新社

プロップ・ウラジーミル [1985]『魔法昔話の起源』斎藤君子訳　せりか書房

プロップ・ベ・ヤ [1970]『ロシアの祭り』大木伸一訳（民俗民芸双書9）　岩崎美術社

ボガトゥイリョーフ P. G. [2000]『呪術・儀礼・俗信－ロシア・カルパチア地方のフォークロア』千野栄一・松田州二訳　岩波書店

中村喜和 [1994]『イワンのくらし　いまむかし－ロシア民衆の世界』 成文社

マルガリータ冨田 [2003]『ロシア人・生まれてから死ぬまで』（ユーラシアブックレットNo.44）井桁貞義訳　東洋書店

柳宗悦 [2000]『手仕事の日本』（地球人ライブラリー43） 小学館